ペサック・レオニャン、気候変動への適応に向けた5品種を承認

ペサック・レオニャンで病害抵抗性の白ブドウ3品種と赤ブドウ2品種を承認。植栽比率5%、ブレンド比率10%が上限

2026年11月20日（金）



ボルドーで最も名声の高いワイン産地の一つ、ペサック・レオニャンは、生産規定の改定を承認した。ブドウ畑が気候変動の影響に適応できるよう、5品種の限定的な使用を認めるもので、このうち白ブドウ3品種は真菌性病害への抵抗性を持つよう育種された品種だ。

フランスのワイン教育機関Terroirs du Mondeが新旧規定の条文ごとの比較を公表したところによると、改定後の生産規定は、2026年にフランス国内での異議申し立て手続きを経て、11月3日に承認された。改定はアペラシオンの防衛・運営機関が求めたもので、同地域のスティル赤ワインと白ワインに適用される。

主な変更点は、フランスのアペラシオン統制機関INAOが、温暖化する気候により適した品種を試験できるよう設けた枠組み「VIFA」に基づき、いわゆる適応品種5種の使用を認めたことだ。白ワイン用にはFloréal、Sauvignac、Souvignier Grisが加わった。いずれも病害抵抗性を考慮して選抜された品種で、殺菌剤の使用を減らすことを目的としている。赤ワイン用には、TannatとCabernet Sauvignonの交配品種Arinarnoaと、かつてはほとんど栽培されなくなっていたボルドーの古い品種Castetsが承認された。

使用には厳格な制限が設けられている。新しい品種を使う生産者は、INAOと地元のアペラシオン機関との間で協定を結ばなければならない。適応品種の植栽面積は、各生産者のブドウ畑面積の5%以下、完成したワインのブレンドに占める割合は10%以下とする。上限は赤ワインと白ワインでそれぞれ別に計算される。

白ブドウには例外が一つある。フランス農村法の保護対象となる居住区域から20メートル以内に植えられた新たな白の適応品種は、すでに散布が制限されている区域にある場合、植栽比率5%の上限に算入されない。この適用除外は完成したワインの10%上限には影響せず、赤ブドウ2品種には適用されない。

今回の規定改定では、長年適用されてきたブドウ畑の配置要件の一部も緩和された。植栽密度の下限は1ヘクタール当たり6,500本から5,500本へと、約15%引き下げられる。畝間の最大幅は1.6メートルから1.8メートルに広がる。畝内の株間の下限は0.8メートルで据え置かれる。仕立てた樹冠の必要高は畝幅に連動するため、樹冠高の下限は0.96メートルから1.08メートルに引き上げられる。

雑草管理については、化学除草が認められる範囲を、畝の両側それぞれ30センチメートルの帯状部分に限定した。畑の端部での化学除草と、全面的な化学除草の禁止は引き続き維持される。

古いブドウ畑についても、アペラシオンの認定対象となる期間が延長される。改定規定では、1990年8月31日より前に植えられ、植栽密度が1ヘクタール当たり5,000～5,500本のブドウ樹は、認可収量を一律10%減らすことを条件に、2050年の収穫までペサック・レオニャンの認定を受け続けることができる。2024年の規定では猶予期間は2030年までで、収量の減額幅は10～40%だった。

以前設けられた適用除外の一つは、改定規定には引き継がれなかった。2024年の措置では、2009年7月31日より前に植えられ、従来の1ヘクタール当たり6,500本という密度要件を満たす一方、株間の規則を満たさない区画も認定対象に残ることが認められていたが、今回の改定文からは削除された。Terroirs du Mondeによると、該当する区画は個別に審査される必要がある。

アペラシオンの基本規定のいくつかは変更されていない。ペサック・レオニャンの対象は引き続き10コミューンに限られる。基本収量は1ヘクタール当たり54ヘクトリットル、上限は同60ヘクトリットルで据え置かれる。熟成期間と販売開始日は変更されず、生産者のドメーヌで瓶詰めする要件や、「Cru Classé de Graves」の表記を含むラベル規則も維持される。

ワイン業界では今回の決定がボルドー以外でも注目される可能性が高い。知名度の高いアペラシオンが、病害の圧力や農薬散布の制限、温暖化する栽培環境に対応しながら、産地の個性を守るためのモデルとなり得るためだ。この変更により、すでに広域の地域呼称で認められている適応品種の存在感も高まる。ArinarnoaとCastetsはすでにBordeauxとBordeaux Supérieurで認可されており、白ブドウのFloréal、Sauvignac、Souvignier Grisも2025年に承認されたBordeaux Supérieurの規

定に含まれていた。

改定文には行政手続き上の変更も盛り込まれた。区画地図は市役所ではなくINAOのウェブサイトで閲覧できるようになり、公式の地理参照コードも更新された。ペサック・レオニャンは1987年、グラーヴの北部から独立して誕生した。